

実践のまとめ（第3学年 英語科）

上越市立城東中学校 教諭 山田 智也

1 研究テーマ

伝える場面や状況を意識し、主体的に英語で表現できる生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、話すことの領域で、「やり取り」と「発表」の資質・能力を身に付けることが求められている。授業においては、ペア活動等で、「やり取り」の練習を繰り返したり、「発表」の練習を繰り返したりし、ルーブリック評価をもとに、生徒同士で振り返る活動を取り入れてきた。また授業開始時の帯活動では、即興的な表現活動を行い、正確な発話量を増やす手立てを行った。そして、主体的な英語運用能力育成のため、場面や状況を意識させた指導を行ってきた。

その一方で、課題も見えてきた。継続的に即興で表現する活動を行ってきたが、表出英語の発話量は増えたものの、正確性を意識した表現ができない生徒が多い。また、即興的な英語表現に不安があり、單元ごとのパフォーマンステストに自信をもって参加することができない生徒が多い。

以上の理由から、英文内容を伝える場面や状況を意識し、主体的に英語で表現できる生徒の育成を目指す。

(2) 研究テーマに迫るために

① 発話した英文の正確性を意識させる指導

帯活動では、絵描写タスクやチャット、ディベートなどを行っている。しかしこれらの活動では、発話量は増えるが、文法を意識した発話につながりにくい。そのため、発話英語の文法的正確性を意識させるため、語順シートの提示で語順を意識させたり、使用できる文法を共有し、定着させたりしている。

② パフォーマンステストのルーブリックを活用した中間指導

ルーブリック評価を活用したパフォーマンステストは今まで行われてきたが、生徒が自信をもって取り組めるよう、中間指導を行う。これは、パフォーマンステスト本番前に生徒同士やALTとのリハーサルやプレ発表を通じて、生徒自身が自分のパフォーマンスについて客観的に評価し、より良い発表のための準備をするためである。中間指導を行うことで、生徒は自分の英語を自己調整して、自信をもちテストに臨むことが期待される。

(3) 研究テーマにかかわる評価

次の3つの観点から評価を行う。

- ① 単元前後の生徒の様子を撮影し、分析する。 (映像)
- ② 生徒の振り返りシートに記入されたコメントを分析する。 (ワークシート)
- ③ 仲間と協力し、リハーサルやプレ発表している様子を分析する。 (映像)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

PROGRAM 5 The Story of Chocolate (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 開隆堂)

(2) 単元の目標

- ・関係代名詞主格などの意味や働きを理解している。(知識・技能)
(思考力・判断力・表現力等)
- ・人やものをくわしく説明して表現することができるようにする。
(思考力・判断力・表現力等)
- ・チョコレートの歴史やフェアトレードについて意見交換できるようにする。
(思考力・判断力・表現力等)
- ・自分の好きな人やものなどについて、意欲的に表現しようとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
新しい文法や単語を言うことができる。	本文の内容を踏まえて、場面や状況を意識し、相手に伝えることができる。	発話練習を通じ、より良い英語表現をすることができる。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全8時間、本時7/8)

時	学習内容	学習活動	☆評価規準
1	【扉/Scenes 1】 ・扉の写真やリスニングを通して、本課の内容を想像させる。 ・関係代名詞主格 (who) の用法を理解し、将来どのようになりたいかについて表現する。	◎Who is the girl who has a long hair?	〈知識〉関係代名詞主格 (who) などの意味や働きを理解している。 〈技能〉関係代名詞主格 (who) などの意味や働きの理解をもとに、詳しく説明された人物について、聞き取ったり書いたりする技能を身に付けている。
2	【Think 1】 ・本文の確認・音読練習をする。 ・チョコレートの歴史について考える。	◎ What is the original chocolate? ◎ Could all the people enjoy chocolate in the old times?	〈知識・技能〉 〈思考・判断・表現〉 チョコレートの歴史やフェアトレードについてほかの人に伝えるために、会話を読んで、概要や要点を捉えている。 【観察・ワークシート】
3	【Scenes 2】 ・関係代名詞主格 (which) の用法を理解し、動物についてクイズを作る。	◎ What is this animal? Guess what?	〈知識〉関係代名詞主格 (which) などの意味や働きを理解している。 〈技能〉関係代名詞主格 (which) などの意味や働きの理解をもとに、くわしく説明された都道府県や動物について、聞き取ったり書

			いたりする技能を身に付けている。
4	<p>【Think 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の確認・音読練習をする。 ・チョコレートの歴史について考える。 	<p>◎ Who introduced cacao beans to Europe?</p> <p>◎ How did the Swiss man and his friend improve the taste of chocolate?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チョコレートの歴史やフェアトレードについてほかの人に伝えるために、スピーチ原稿を読んで、概要や要点を捉えている。 <p>【観察・ワークシート】</p>
5	<p>【Scenes 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞主格 (that) の用法を理解し、友だちをある場所に誘う。 	<p>◎ What kinds of movie do you like to see?</p>	<p>〈知識〉 関係代名詞主格 (that) などの意味や働きを理解している。</p> <p>〈技能〉 関係代名詞主格 (that) などの意味や働きの理解をもとに、くわしく説明されたものや場所などについて、聞き取ったり書いたりする技能を身に付けている。</p>
6	<p>【Think 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の確認・音読練習をする。 ・フェアトレードについて考える。 	<p>◎ Why are cacao farm workers poor?</p> <p>◎ Has fair trade changed farmers' lives?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チョコレートの歴史やフェアトレードについてほかの人に伝えるために、スピーチ原稿を読んで、概要や要点を捉えている。 <p>【観察・ワークシート】</p>
7 (本時)	<p>【Retell】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の音読をし、本文の内容について自分の言葉で話す。 	<p>◎ Please introduce about chocolate.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チョコレートの歴史やフェアトレードについてほかの人に伝えるために、簡単な語句や分を用いて、写真や絵を見て、相手に示しながら概要を話している。 <p>【観察・ワークシート】</p>
8	<p>【Interact】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある人物やものなどを想定してスリーヒント・クイズをする。 ・好きな人物やものについて書く。 	<p>◎ Guess what?</p> <p>◎ Please introduce what you like something or someone.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手にわかってもらえるように、ある人物やもの、キャラクターについてクイズを出したり答えたりしている。 ・自分の好きな人物やものについて友だちに伝えるために、簡単な語句や文を用いて書いている。 <p>【観察・ワークシート】</p>

4 単元と生徒

(1) 単元について

今までのパフォーマンステストでは、練習が個人に任せられることが多く、生徒の習熟度に差がみられた。今回のリテリングに向けた取組として、ペアで練習し、グループで発表する場面を作ることで、自分の発表を客観的に見ることができる。生徒同士の活動後のフィードバックを基に、自分の発表を振り返り、テスト本番に臨むことができるような足場掛けを狙いとする。チョコレートという身近な話題について話すので、生徒の興味関心を高め、前向きに取り組めるような場面・状況設定を行う。

(2) 生徒の実態

本クラスの生徒は33名である。学習に対し、前向きに取り組む生徒は多いが、生徒間の学力に差が見られる。また、英語の発話量は多いが、発話する英文の構成には課題がみられる。

本クラスは、毎時間の開始時にスピーキング活動を行う時間を取り、発話量を増やすため、Q & Aの1問1答や、絵描写、チャットなどを行っている。活動の後にはフィードバックの時間をとり、どんな英語表現が使えるのか、生徒間で共有している。本授業では、これまで取り組んできた活動を活かし、仲間で協力し合い、本文の内容を伝え合う活動を行う。

5 本時の展開（令和4年9月27日実施）

(1) ねらい

・状況・場面を意識し、本文の内容を相手に説明することができる。

（知識・技能、思考・判断・表現）

・リハーサルの結果を基に、自分の発表を振り返ることができる。

（主体的に学習に取り組む態度）

(2) 展開の構想

本時は、ルーブリックを基に、学習した内容を相手に伝える活動を行う。そのために、本文の内容を確認し、内容を確認する活動をする。それからリテリング活動を行わなければならない状況・場面を確認する。ペアでリハーサルを行い、自分の発表を訂正する。最後にグループを作り、それぞれの発表に対するフィードバックを行う。アドバイスをもらうことで、発表がより良いものになり、自信をもってパフォーマンステストに向かえるような活動を設定したい。

十分満足できる（A）	写真や絵を見せながら、自分なりに工夫して、本文の内容を説明することができる。
おおむね満足できる（B）	写真や絵を見せながら、本文の内容を説明することができる。

(3) 展開

	学習活動	教師の働き掛け 予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
1 導入 10分	○Warm-upとして、画面に示される絵を英語で説明する。	・絵を見て既習の英語表現を使い、説明するよう声掛けする。	◇テンポよく、スピーディーに行う。 ○英語をなかなか使えない生徒に助言を行う。
学習課題 チョコレートの歴史について、具体的に説明できる			
2 展開 30分	○ペアを作り、本文の内容について説明し合う。 ○評価シートを記入し、アドバイスを記入する。 ○記入された評価シートをもとに、個人練習をする。 ○グループを作り発表し、評価シートを記入する。	・ループリックを見て、どこに気を付け発表するか確認する。 ・具体的にアドバイスできるよう声掛けする	思 判表 状況・場面を理解し、発表しているか。 態 積極的にコミュニケーションをとろうとしているか。
3 まとめ 振り返り 10分	○今回の取組を振り返る。 ○ワークシートに次回目標と自学内容を記入する。	・今回の発表を基に、具体的に記入する。	

(4) 評価

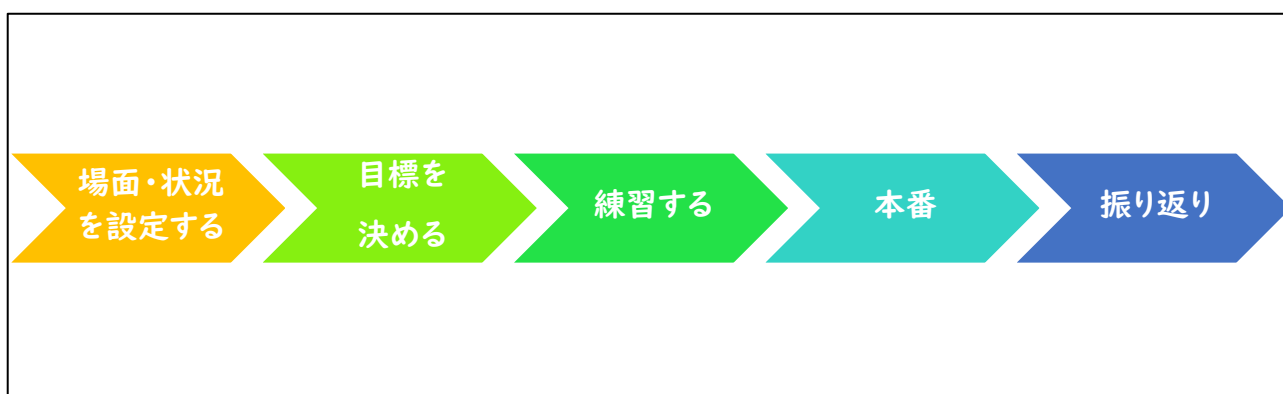
- ・状況・場面を意識し、本文の内容を相手に説明することができたか。
(知識・技能、思考・判断・表現)
- ・リハーサルの結果を基に、自分の発表を振り返ることができたか。
(主体的に学習に取り組む態度)

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

今回の授業では、リテリングを目標に、個人とグループで練り上げる活動を行った。「1. リ

- ① 発話した英文の正確性を意識させる指導として、授業開始時の帯活動では、絵描写タスクやチャット、ディベートなどを継続している。一般的に、生徒が発話する量を確保するためには、発話する内容の英文法や語彙が犠牲になりやすいと考えられる。しかし、本研修内でも、生徒たちから出てきた英語や、活動後のフィードバックの時間を確保することで、少しずつ発話する英文が、文法を意識したものになってきている。また、生徒同士のフィードバックでも、「こうした方がいいのではないか」という話し合いができています。英文の正確性を高めることは難しいが、今後も継続していきたい。
- ② パフォーマンステストのルーブリックを活用した中間指導では、仲間との話し合いの中で、生徒自身の技術を高めようとする姿が多くみられた。また、目標設定し、中間指導というリハーサルを行うことで、パフォーマンステストに対し、前向きに取り組む生徒が多く見られた。現在、ライティングのパフォーマンステストについても同様に行っているが、仲間同士で、英文を教え合いながら学習する姿が見られた。思考・判断・表現の育成のためには、場面や状況を設定することが必須である。また、そのテストに向けた目標を設定し、リハーサルで中間指導を行い、生徒にフィードバックする。そしてテスト本番に臨み、自分の取組を振り返り、次の学習に生かすことを意識させていく。このサイクル（図4）が上手くつながることが、生徒の学力向上につながると考える。



(図4)

(3) 今後の課題

今後の課題として①場面や状況をどれだけ意識させられるか、②フィードバックの質、③次のテストに向けた課題の継続、の3点が挙げられる。①については、生徒にどれだけ興味・関心を喚起する課題を考えられるかである。②は中間指導における、生徒同士のフィードバックの視点である。フィードバックをするためには、ルーブリック評価を確実に理解しておく必要がある。そのために、丁寧にフィードバックしている生徒の表現を共有していくことが有効と考える。③については、思考・判断・表現に向けた、知識・技能の底上げと、生徒への早めの課題提示である。指導と評価の一体化の重要性が言われているが、今後も見通しを持った指導計画と評価計画を、生徒と教師が共有していきたい。

3. グループで発表し合い、アドバイスを記入しよう

グループからのアドバイス

4. 振り返り

言いたかったけど言えなかったこと

自己評価と振り返り(次回はこうするぞ!)

	伝える内容	内容の正確さ	英語の正確さ	態度
S(5)	自分の意見を入れながら、本文の内容を、違う表現で言うことができる	教科書外の内容も含め、具体的に本文の内容を言うことができる	相手を意識したスピードで、ほとんど間違えることなく、英文で言うことができる。	声の大きさ、抑揚や間の取り方、表情やジェスチャーを意識し、英語で発表できる
A(4)	本文の内容を違う表現で言うことができる	まんべんなく本文の内容を言うことができる	ほとんど間違えることなく、英文で言うことができる。	声の大きさを意識し、英語で発表できる
B(3)	本文の内容を言うことができる	本文の内容を言うことができる	英文で言うことができる	英語で発表できる
C(2)	本文の内容を言うことができない	本文の内容を言うことができない	英文で言うことができない	発表できない
F(1)	テストをうけない			